

大月っ子

大月小学校だより 令和7年1月8日(水) NO. 19

目指す子ども像：『 自分が好き・友達が好き・大月が好き 』

令和7年 あけましておめでとうございます

2025年、希望に満ち満ちた1年の始まりとなりましたが各御家庭におかれましても、心穏やかで幸せな三が日をお過ごしのことだったと存じます。

さて、冬休み期間中、子どもたちは事故や事件等に遭うことなく、心新たに3学期を迎えることができたことを、まずもって喜び合いたいと思います。3学期と言えば、本年度の学習や生活を締めくくるとても大切な期間となります。子どもたちには「元気・探究・根気」を大切に、50日間を有意義に過ごしてもらいたいと思います。特に6年生にとっては3月の卒業に向かい、小学校生活の最終章です。「大月小学校で学べてよかった。」と思えるよう身も心も、ともに実りある期間にしてほしいと切に願っています。

ご家庭や地域におかれましても、大月小学校教育諸活動に更なるご理解・ご支援をいただきますよう本年もよろしくお願い申し上げます。

<第77回 幡多教育文化展 書画の部 入賞者>

部門	学年	氏名	部門	学年	氏名
硬筆	1		図画	1	
硬筆	2		図画	2	
毛筆	3		図画	3	
毛筆	4		図画	4	
毛筆	4		毛筆	5	
硬筆	5		図画	5	
硬筆	6		図画	6	
毛筆	6		図画	6	
毛筆	6		おめでとうございます!		

<第74回 社会を明るくする運動作文コンテスト>

賞	学年	氏名	作品
高知県保護司会連合会会長賞	6		みんながみんなのために

<令和6年度 高知県海の子絵画展>

賞	学年	氏名	作品
農林中央金庫高松支店長賞	2		きれいな海の中
会長賞	1		サメ
会長賞	2		クラゲ
会長賞	2		ゆめのしまへ
会長賞	2		テーブルサンゴ

人権目標・・・人権集会で発表した人権目標と人権作文を紹介します!

だれに対しても 思いやりの心を持つ。 (六年生)	一人一人の意見を大切に 毎日楽しくすごそう。 (五年生)	みんなで仲よく遊ぼう。 (四年生)	いじめをしない。けんかをしない。 (三年生)	みんなが楽しいと思える学校にしよう。 (二年生)	にこにこ えがおで なかよくしよう。 (一年生)
-----------------------------	---------------------------------	----------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------

みなさんは、筋ジストロフィーという病気を知っていますか。筋ジストロフィーとは、遺伝子の変異によって、体の筋肉が徐々に壊れ、筋肉が衰えていく病気です。筋ジストロフィーは、10万人に7人程度の発症率と言われており、かかってしまうと、ほとんどの人が20歳までに亡くなってしまい、現在のところ特效薬のないおそろしい病気です。私の家族には、病気や障害を持っている人はいません。ただ私の伯母にあたるお母さんのお姉ちゃんは、この筋ジストロフィーにかかっていることが、2歳の時に分かったそうです。この話をお母さんから聞いた時、まだ幼いのにかわいそうだなと思いました。幼少期の頃、はうことはできるのに歩くことができなかったので検査をしたところ、発症していることが分かったそうです。だから、伯母さんは一度も歩いたことがないとのことでした。私は、歩けることが当たり前だと思っていたので、きっと同じように考えていた、おじいちゃんとおばあちゃんは辛かっただろうし、元気に歩いてほしかったと思います。伯母さんが小学校に入る時、おじいちゃんが特別支援学級を作ってほしいとお願いに行ったそうです。その頃は、特別支援学級というクラスは無かったので、できた時にはすごく喜んでいました。特別支援学級にも友達が遊びに来てくれたり、入院や退院を繰り返しても、とても優しくしてくれたりしたそうです。私達の6年生も特別支援学級の友達がいます。授業に通級してくることがあるので一緒に活動していますが、休み時間に特別教室に遊びに行ったりはしていません。だから、積極的に声をかけていきたいです。伯母さんは、とても負けず嫌いの性格だったようで、徐々に体が動かなくなってもすごい集中力で勉強をしたり小さなビーズでアクセサリーを作ったりしたそうです。絵も描いていたそうです。私は、みんなと同じことが出来なくても、自分が出来ることを見つけて一生懸命頑張っていたんだと思いました。私も出来る事を見つけて頑張りたいです。中学生になってからは、入退院を繰り返すことが多くなり、伯母さんにおばあちゃんが付き添うことが増えていったそうです。その代わりに、ひいばあちゃんとおじいちゃんが料理等の家事をし、妹であるお母さんも掃除をしていたそうです。そんな家族のおかげで、伯母さんも病気に負けずに頑張ろうと思えただろうし、おばあちゃんも心強かったと思います。重い病気には一人で立ち向かうのではなく、家族みんなで向き合うことが大切なんだと思いました。私が一番心に残っていることは、「私は百歳まで生きる」という言葉です。病気が進んで体が思うように動かなくなっていく中でずっと不安や怖さもあったと思います。それでもあきらめずに、一生懸命に生きようとした姿がかっこいいと思いました。伯母さんが何故このようなことを言えたかという、周りの友達や治療をしてくれたお医者さん看護師さんそして何より家族の支えがあったからだと思います。おばさんが安心して居られた場所があったということは、とても大きなことだったと思います。そして何より、そんな人たちの思いを感じていたからこそ生きることに強い意志を持っていたのではないのでしょうか。その伯母さんは32歳で亡くなったそうです。私のお母さんは「理学療法士」の仕事をしています。お母さんは、家族が病気で思うように動けない姿やそれを支える家族の姿を見て育ってきたから、誰かの役に立てる仕事に就きたいと思い、この仕事を選んだそうです。そんなお母さんの姿がともかっこいいと思いました。

世の中には、伯母さんと同じように難病で苦しんでいる人や障害を持って産まれてきた人がたくさんいます。私はまだ幼くて、出来る事は少ないけど、もしそういう人がいればその病気について知り、支えになってあげたいと思います。それにはまず、同じ仲間の特別支援学級の友だちに障害を持っている持っていないに関係なく優しく接したいです。だからまず、特別支援学級に遊びに行ってみることに始めてみたいと思います。そして、障害や病気を持っている人が、安心して暮らせる世の中にしていきたいです。

3年が人権の花を植えました

